

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol. 48

「集中豪雨と渇水とホタル」

香川県 小豆島町長

さかした 坂下
いちろう 一郎



小豆島町は今年3月に合併により誕生した、小豆島の東部と南部を占める人口約17,000人の新しい町です。急峻かつ複雑な地形を有し、河川が急流となっているため、過去に何度も水害と渇水に見舞われてきました。

特に、昭和49年と昭和51年の集中豪雨では、谷という谷が土砂崩れを起こし、50名以上もの尊い人命が失われる未曾有の大災害となりました。昭和51年には数日間間に1400mmもの降雨があり、役場には今も災害を忘れないように「1400mmの像」が設置されています。また、町民の間では、昔話の度に49災や51災という言葉が聞かれるなど、語り継がれています。

小豆島町はまた、たびたび渇水にも苦しめられてきました。近年だけでも昭和59、60、61年、平成3、6、7、8年とほとんど毎年のように深刻な水不足が生じており、特に平成7年から8年に

かけては、連続230日間、最大16時間断水という、住民生活に深刻な影響を与える事態となりました。

このため、抜本的な治水及び利水対策として、新たなダム建設の機運が高まり、平成9年3月に、地元各位の深いご理解の下、総貯水量236万トンの吉田ダムが完成しました。以後、水事情は大幅に改善されましたが、なお恒常的な水不足の状態は変わってないことから、現在内海ダム再開発事業を進めております。

ところでこの吉田ダムは、半径1km以内に山あり谷あり川あり海ありの、全国的にも珍しいダムです。もともとダム堰堤の奥ではホタルが多く見られますが、今年、ダム下流域に地元の方々の手でホタルの孵化施設ができました。近くにはオートキャンプ場やロッククライミング場があり、夏場は家族連れで賑わいます。何年か後の神秘的なホタルの乱舞が今から楽しみです。



土石流の爪あと



吉田ダム堰堤より海を望む